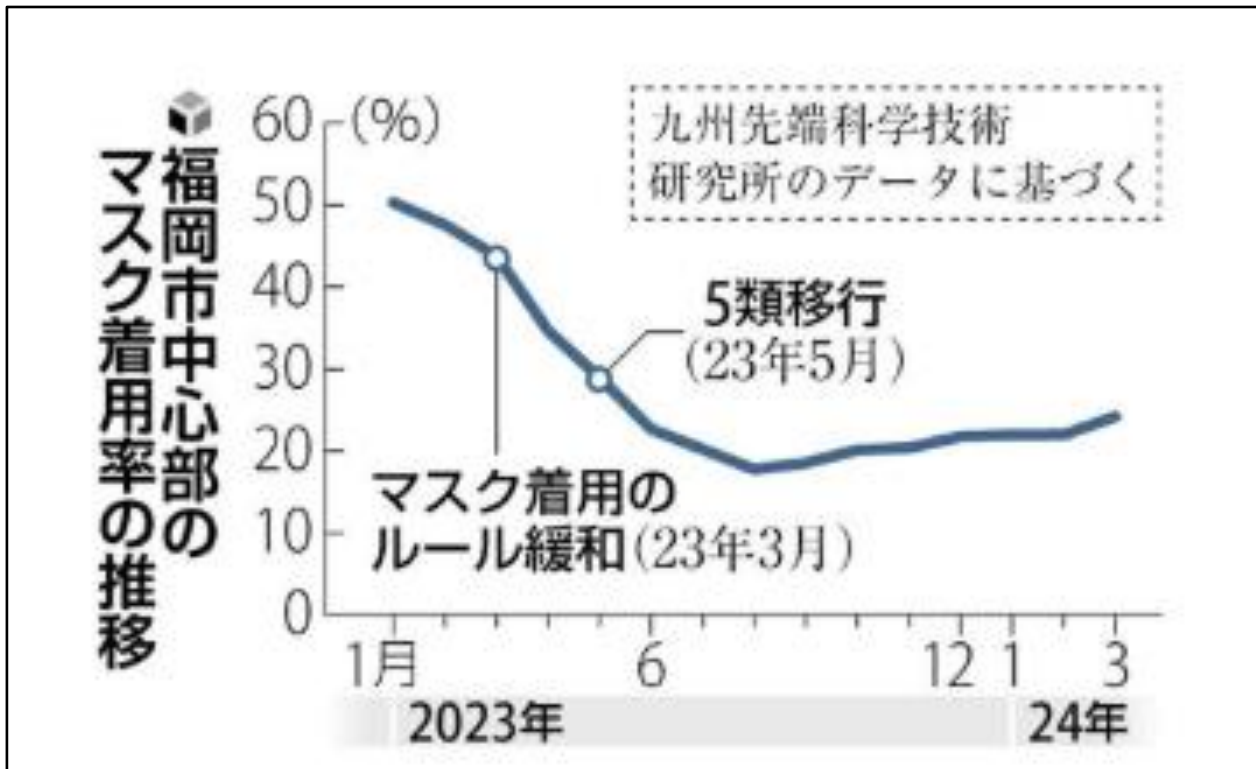


コロナ5類移行1年、マスク着用率は2割ほど…昨夏以降は横ばい「もともと日本人はマスク好きだった」

2025. 5. 7 読売新聞



新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に引き下げられて、8日で1年となる。コロナ禍では当たり前だったマスクの着用。5類移行後、マスクをして出歩く人は徐々に減ったが、一定数は今も着用しており、専門家は「この傾向はしばらく続く」とみている。福岡市の外郭団体・九州先端科学技術研究所は2022年度から、市中心部の天神・中洲地区にAI（人工知能）カメラを置き、人流を計測している。4か所のデータを分析したところ、当初は5～6割だったマスクの着用率は、昨年3月の着用ルール緩和や5類移行を受けて低下した。ただ、昨夏以降は2割ほどで横ばい状態にある。

大阪大の三浦麻子教授（社会心理学）は「コロナ禍を経て、好んでマスクを着けることが『奇異な行動』という印象は減った。もともと日本人は対人不安など、健康管理以外の理由で口元を隠す人がある『マスク好き』だった。一定数の人が着用する傾向は当面続くだろう」と話す。（中村直人）